オーウェンス コーニング

バイナルサイディング

樹　脂　サ　イ　デ　ィ　ン　グ

施工マニュアル

（技術資料）

樹脂サイディングは非常に耐久性の高い高性能樹脂から作られておりますが、樹脂という材料の特性上、気温の上下によって材料が伸縮するという性質を持っております。誤った施工をされますと施工面の歪みや波打ちを引き起こし、更には破損を招くおそれもあります。

施工するにあたりましては、必ずこのマニュアルを熟読され、正しい施工をお願い致します。

INDEX

＜目次＞

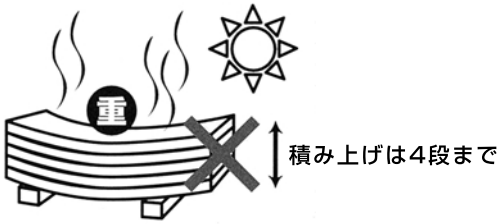
**1 注意事項 ・・・

1 注意事項

1.運搬・保管・養生の心得

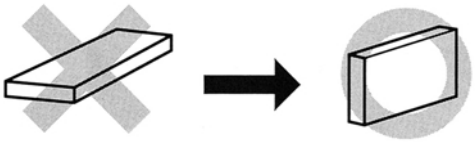
■ 輸送時はケースの底面全体が支えられるように常に平坦な状態で輸送してください。

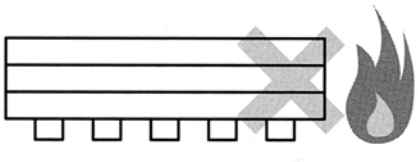
■ パレット、もしくは足棒の上に載せる場合も平坦になるよう足棒を追加するなど留意してください。
■ 現場では変形を避けるため。、炎天下での外置きや、高温に晒される場所には保管しないでください。
■ 常に平坦な場所で横置きで保管し、上には重量物を載せないでください。
■ 積み上げの段数は４段までとし、荷崩れを防止してください。
■ 常に養生シートをかけるなどして雨風がかからないようにしてください。



2.取り扱い上の心得

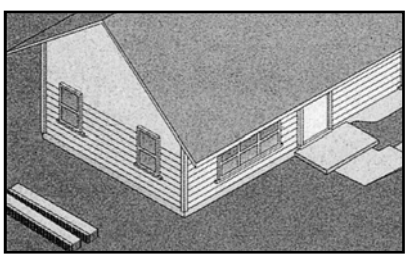
■ 長尺で折れ曲がりやすい商品ですので、持ち運びや取り扱いには十分注意してください。
■ 持ち運びの際には小口面を縦にしてください。
■ 火気には近づけないでください。
■ 硬いものをぶつけるなど強い衝撃を与えないようにしてください。



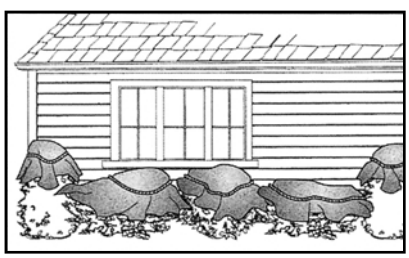


3.安全作業上の心得

■ 高所での作業をする場合には必ず足場を設け、作業時に支障のない身軽な作業服を着用し、防護具（ヘルメットや安全ベルト、命綱）の装着をしてください。
■ ※２ｍ以上の高所作業では防護具の装着が規定されています。
■ 風の強い日の作業では、風に材料が飛ばされないように養生し、高所では材料を持っていると風にあおられて落下する危険がありますので必ず安全ベルト、命綱などの落下防止措置を行ってください。
■ 持ち運びや施工の際に材料の端部で手を切るなどの恐れがありますので、必ず手袋を着用してください。
■ 材料を電動鋸などで切断する際には樹脂の粉が飛びますので必ず安全メガネを着用してください。
■ 電動工具やその他の工具の取り扱いについては、各々付属の取扱説明書をよく読み、注意してください。
■ 残材・廃材は「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に基づき産業廃棄物として正しく処理してください。
■ その他の安全管理については作業者の方の責任のもと、現場の実情に合わせた安全作業の心得ないしは規則をつくり、実行してください。



作業現場は整理整とんを心掛け、常にきれいな状態で作業する環境をつくってください。



植木などにも樹脂の粉が飛びますのでしっかりと養生してください。

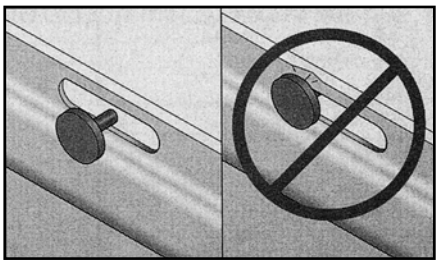
安全メガネは必ず着用してください。

4.施工上の心得

美しい樹脂サイディングの外壁を得るには正しい施工が不可欠です。
材料の特性を良く知り、マニュアルを熟知することが大切です。

■ 釘またはビスはきつく打ちすぎないでください。（釘は必ず手打ちしてください。）
- 釘またはビスの頭とサイディング本体や役物の間隔を約 1mm 程度空けてください。
- 釘打ち後、サイディング本体が左右に、役物は左右または上下に釘穴に沿ってスライドすることを確認してください。

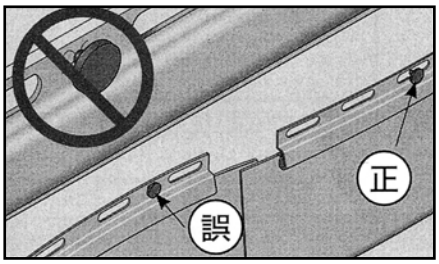
■ 釘またはビスは釘穴の中央に打ってください。
- 但し、縦方向の役物の最上部の釘穴のみ最上端に打ってください。
- 釘穴の開いているところ以外には打たないでください。



■ 本体横方向のジョイントは重ね工法で行ってください。
- 切り込み接合部の間隔は施工時の気温によって変える必要があります。（P 19参照）

■ サイディング及び役物は熱によって伸縮（60℃の寒暖差で約4 mm/m 伸縮）します。
- 端部は施工時の気温に合わせて間隔を開ける必要があります。

■ フード廻り、各種外部配線の出口など以外にはコーキングを使用しないでください。
- 役物、本体の重ね部分にはコーキングをしないでください。（ノンシーリング加工）



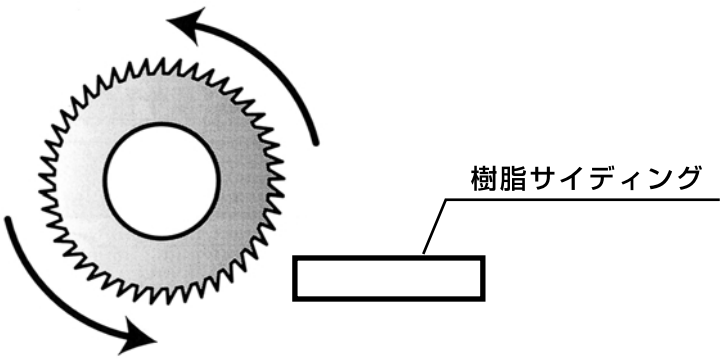
■ 各種機械・工具の使用については、各々の取り扱い説明書にある注意事項を守ってください。

5.切断方法

樹脂サイディングの切断には、電動回転ノコ、手ノコなどを使用することができます。
切断時には必ず安全メガネ、その他適切な保護具を使用し、切り屑飛散防止の為、養生をしっかりとしてください。

■ 電動ノコの場合、細かいピッチのノコ刃（プラスチックソーが望ましい）を**逆目**に取り付けるとスムースに切断が可能です。ダイヤモンドソーやグラインダーなどでも容易に切断が可能です。

・電動回転のこを使用する時は、サイディング材を固定してゆっくり切断してください。



■ 手ノコの場合も刃の細かいプラスチック用のものを使用してください。

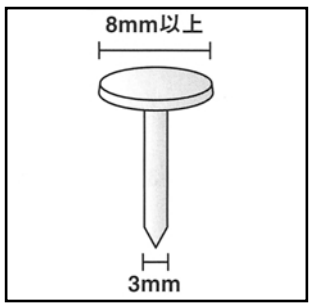
■ 低温時（外気温１０℃以下）になりますと、材料が硬くなり、切断の際など非常に欠けやすくなります。できるだけ室内で材料を十分温めてからゆっくり切断されることをお勧めします。

6.使用する釘・ビスと、止め付け方法

樹脂サイディングの施工には電気メッキ鋼やステンレス製などの耐腐食性の高い釘、またはビスを使用してください。

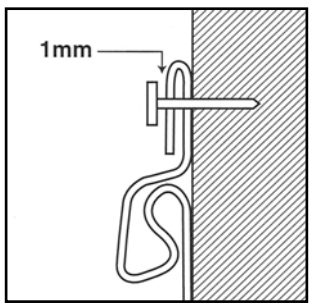
樹脂サイディングを施工して起こる問題の大半は釘もしくはビスの止め付け不良、または不適切な釘・ビスの使用によるものです。

■ 頭径は8mm以上で、下地材にしっかりと届く長さのものを使用してください。（ℓ＝15～45mm以上）
強風地域では頭径を10mm以上のもの、またはワッシャーをかませてください。



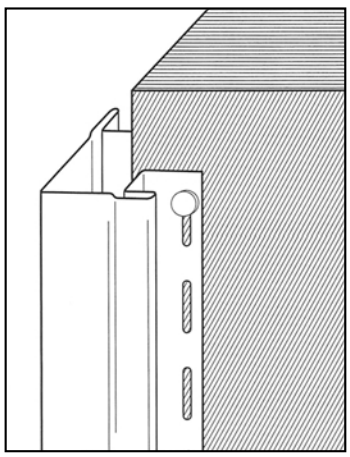
■ 釘はシングル釘かスクリュー釘を使用してください。

注意
・コースレッドビスなど頭にテーパーのかかっているものは使用しないでください。止め付け強度が著しく低下します。
・ワッシャーを入れた際にも必ず1mm程度浮かせて止め付けてください。

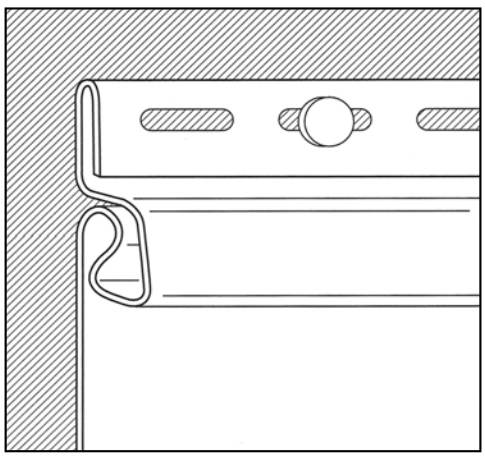


重要ポイント!

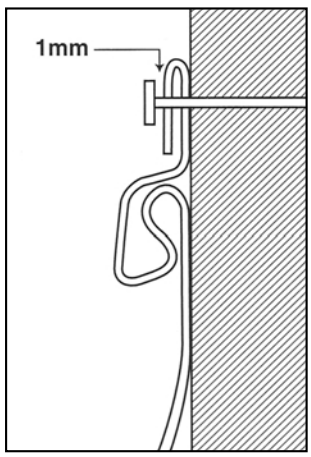
■ 縦方向に取り付ける役物の最上部の釘・ビスは、釘穴の上端に打つ。
■ 本体・役物とも釘・ビスは釘穴の中央に打つ。
■ 釘・ビスの頭は1mm程度浮かせて打つ。
（止め付け後、サイディングまたは役物が釘穴に沿って動くことを確認してください。）



縦に取り付ける役物の最上部の釘・ビスは釘穴の上端に打つ。



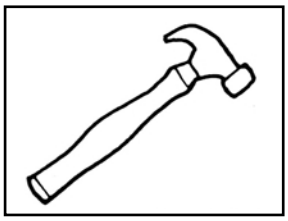
本体・役物とも釘・ビスは釘穴の中央に打つ。

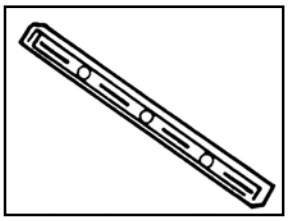


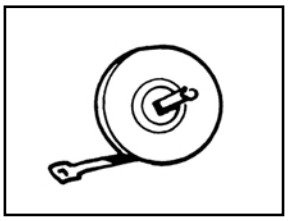
釘・ビスの頭を1mm浮かせて打つ。

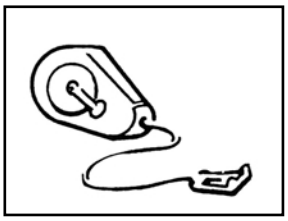
2 使用工具

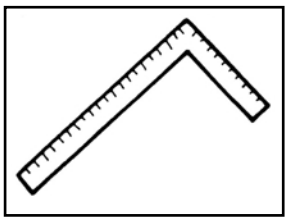
1.一般的な施工工具

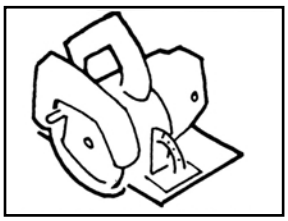

ハンマー（金槌・木槌）

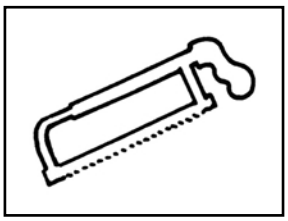

水準器

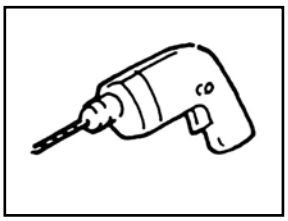

スケール

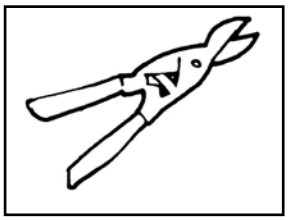

チョークライン

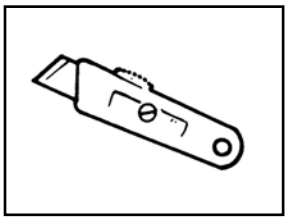

差し金

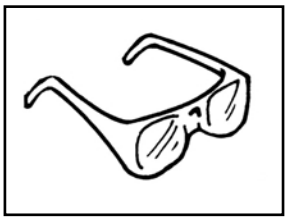

電動ノコ　※1

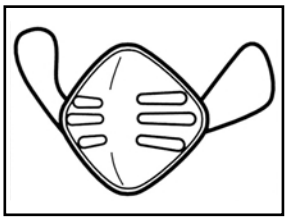

手ノコ　※2

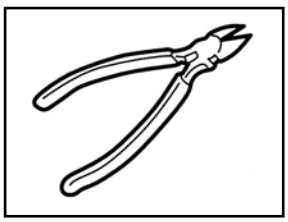

ドリル

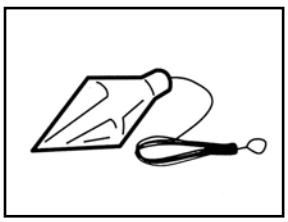

ブリキ鋏　※3

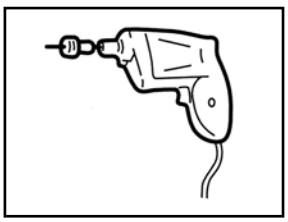

カッター　※4


安全メガネ


防塵マスク


ニッパー


下げ振り


ホルソー　※5

※1　刃は目の細かいプラスチック用のものを逆目に取り付けてください。低温期は材料が硬くなっていますので割れ・欠けに注意し、ゆっくりと切断をしてください。

※2　目の細かいプラスチック用のものを用意してください。

※3　細かな切断や役物の切り取りに便利です。但し低温期は割れやすくなりますので手ノコを使用してください。

※4　サイディング本体など、フラットな面はカッターで切り込みを入れて折り曲げると容易に切り離すことができます。

※5　外部配線・配管用の穴開けに便利です。

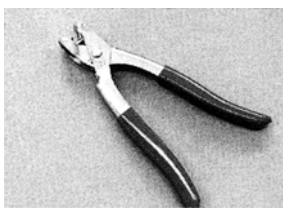
2.樹脂サイディング専用工具

樹脂サイディングを施工する際には以下の専用工具が必要になります。

★　スナップロックパンチ
　フィニッシュトリムなどに本体を固定するための引っ掛け突起を作る工具です。

★　ネイルホールパンチ
　ネイルフィン以外のところで切断した場合の切断面や、釘・ビスを打ちたいところと釘穴の位置がずれているとき、新規に釘穴を開ける工具です。

★　リムーバルツール
　施工後のサイディングを取り外すための工具です。


★ **スナップロックパンチSL5**
フィニッシュトリムに本体を固定するための突起を作る工具です。

★ **ネイルホールパンチNHP1**
釘穴を開けるための工具です。

★ **リムーバルツールSRT2**
本体を取り外す際に使用します。

3 使用部材及び仕様

レキシブルJチャネル

★フ

部分の見切りに有効です。

★ユーティリティトリム

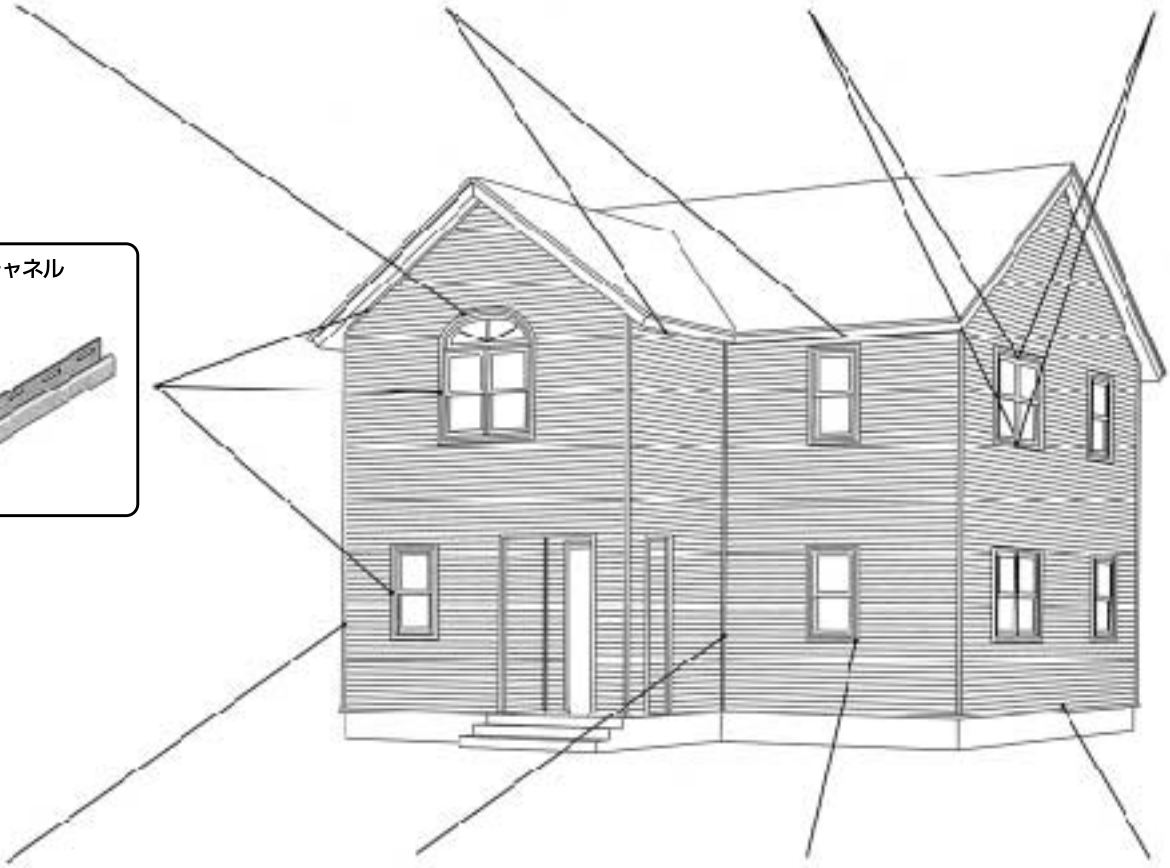
軒天（水平部）に有効です。

★Jチャネル

★ユーティリティトリム

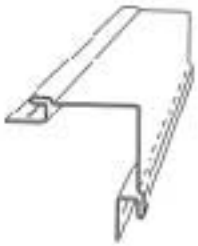
窓廻り上下はJチャネル＋ユーティリティトリムの
組み合わせで施工します。

R

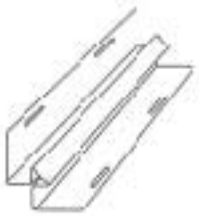


★Jチャネル

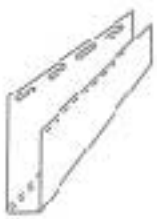
★出隅



★入隅



★ウィンドウトリム



窓廻りをウィンドウトリムで
装飾する納め方もあります。

★スターター

Jチャネル･ユーティリティトリム使用部位に関して ※○：使用。×：使用しない。

使用パーツ／使用部位	軒天部		窓･開口部		
	切妻部	水平軒天部	下側	上側	左･右側
Jチャネル	○	○	○	○	○
ユーティリティトリム	×	○	○	○	×

4 標準施工手順（リフォームの場合）

※新築の場合は別途資料（お得意様配付資料）をご参照下さい。本体施工からはリフォーム・新築とも共通です。

作業準備
（作業場所の確保、工具の準備・点検、現場周辺の養生など）

▼

既存外壁の確認・点検

▼

障害物の撤去・必要な付帯工事

▼

既存外壁の処理・補修
（錆止め・防水処理・コーキング処理）

▼

出隅・入隅取り付け

▼

開口部・軒天部へJチャネル取り付け

▼

スターター取り付け

▼

本体取り付け

▼

完了

※この施工手順は標準的な例です。

※設計上の注意事項
リフォームの場合でも、地域によっては
建築基準法の制限を受ける場合があります。

5 下地工事

1. 既存外壁の確認と点検

- 既存外壁の構造確認をしっかりと行ってください。釘またはビスの保持力が十分にとれない構造体の上には施工できません。
- 既存外壁がモルタル仕上げの場合はモルタルが下地より剥離していないか確認してください。
- 既存外壁が波板トタンや金属サイディングなどの金属系の場合、錆が発生していないかどうか確認し、必要があれば錆止め処理を施してください。
- 既存外壁の下地となっている柱や間柱、胴縁などの木下地の位置を確認し、マーキングしてください。
- 既存外壁にヒビ割れや穴開き等がある場合はコーキングなどでしっかりと防水処理を施してください。（必要があればさらに防水通気シートを施工します。）
- 窓廻りや給排気口などの開口部廻りのシーリングなども十分に点検し、コーキング切れなど、防水処理が不十分な場合は補修をしてください。
- 既存外壁に不陸がある場合には、胴縁にて不陸の調整を行います。（胴縁は樹脂性のものをおすすめします。）

2. 障害物の処理

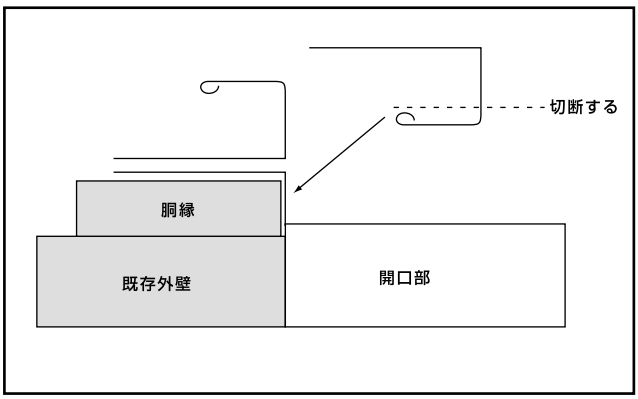
- 雨樋は縦樋・取り付け金具を取り外し、サイディング施工後に再度取り付けてください。
- 玄関灯などの外灯や、スイッチ類は必要に応じて取り外し、施工後に再度取り付けてください。
- 電気のメーターボックス・水道管・ガス管・エアコン室外機などやむを得ず取り外す場合は、専門の工事業者に依頼してください。
- ボイラーやストーブの排気トップ、温水配管など、サイディングに高熱の悪影響を及ぼすような箇所には、不燃ボードや石綿、断熱材などで囲い、サイディングに熱を伝えないように施工してください。防水処理も点検してください
- その他施工に支障のある障害物は移動・撤去してください。

3. 必要な付帯工事

- 軒天、破風、鼻隠し、胴差、幕板、戸袋などの塗装が必要な箇所は、サイディング施工前に行ってください。
- 窓枠などの交換や補修などもサイディング施工前に行ってください。

4. 胴縁工事（必要な場合のみ）

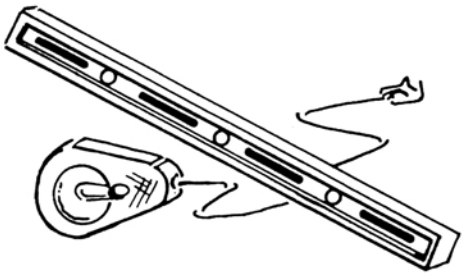
- 既存外壁の不陸を調整する必要がある場合は胴縁を取り付けしてください。
- 通気シートを貼る場合は胴縁施工後に貼ってください。（胴縁の上から）
- 開口部廻り、縦胴縁、軒下部・スターター部の横胴縁が必要です。
- 開口部廻りの胴縁が既存サッシなどより外に出る場合にはＪチャネルを加工してコグチ面を隠すか、板金加工（現場調達）にて処理してください。

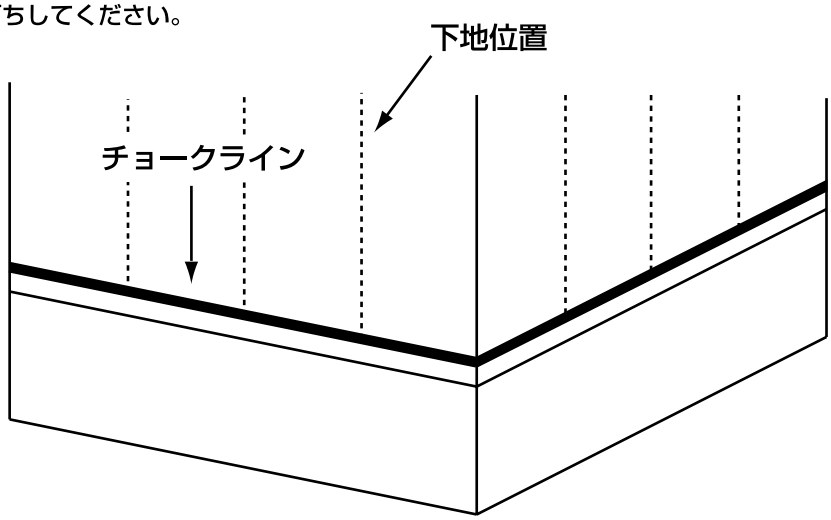


6 本体施工

1. スターターの墨打ち

■ スターター取り付け位置へ水平に墨打ちしてください。
■ 既存壁に直接施工する場合は、下地位置にも墨打ちしてください。



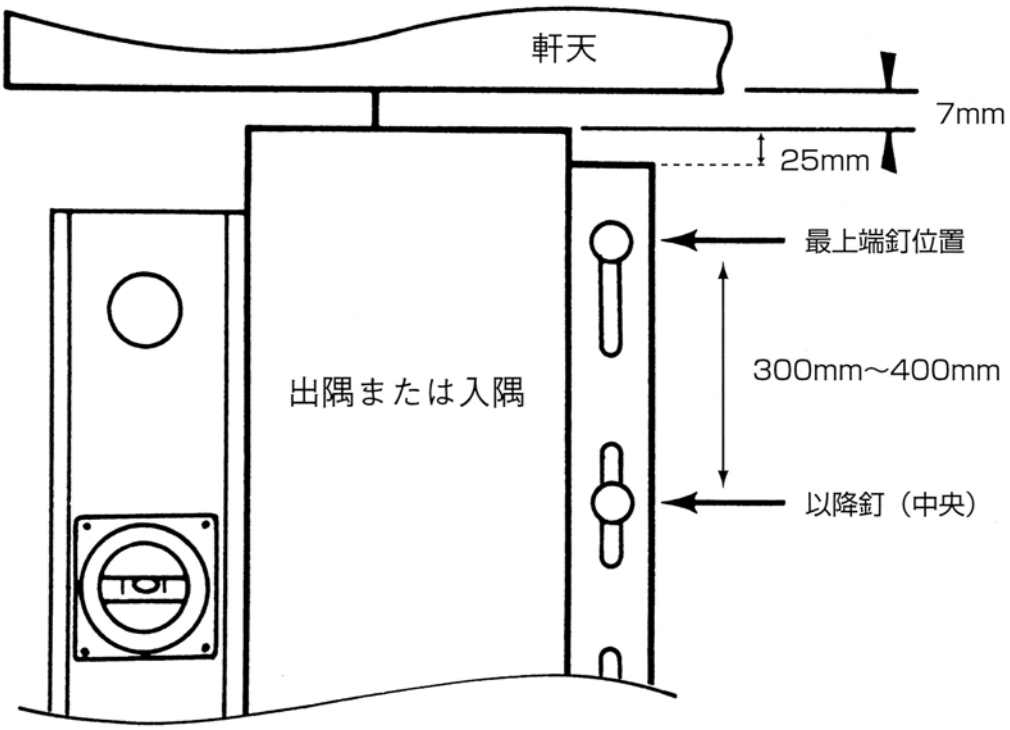


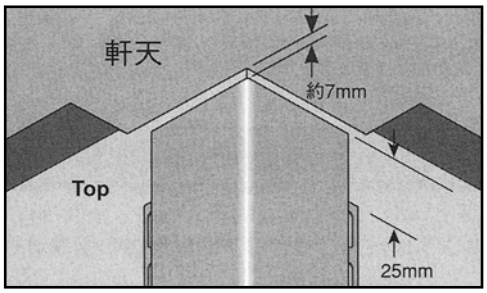
2. 出隅・入隅の取り付け

始めに出隅・入隅役物を取り付けます。

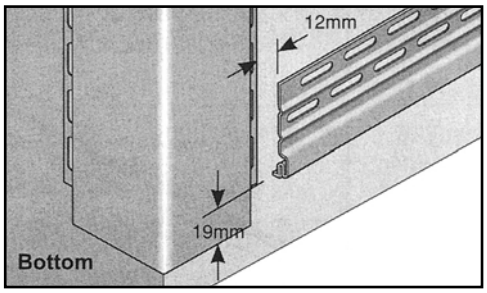
■ 出隅と入隅は軒天から約 7mm 離した位置から取り付けてください。最上端の釘穴には役物が下にずりおちないように釘またはビスを最上部に打ってください。
■ その下以降は300 mm ～400 mm ピッチにて釘穴の中央に釘打ちしてください。

※ 釘またはビスの頭は打ち込みすぎないよう、頭を1mm浮かせてください。釘打ち後に出隅・入隅が釘穴に沿って上下にずれ動くことを確認してください。

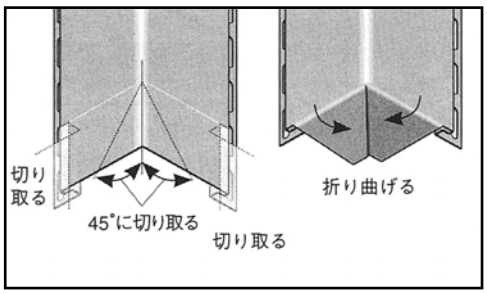




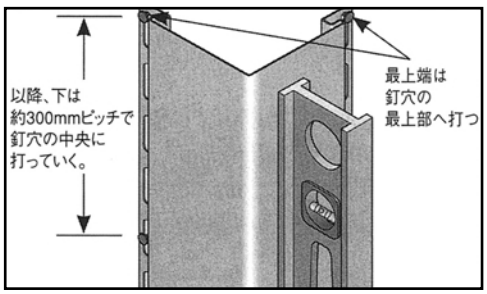
■ 出隅と入隅は軒天より約 7mm 離した位置から取り付けてください。



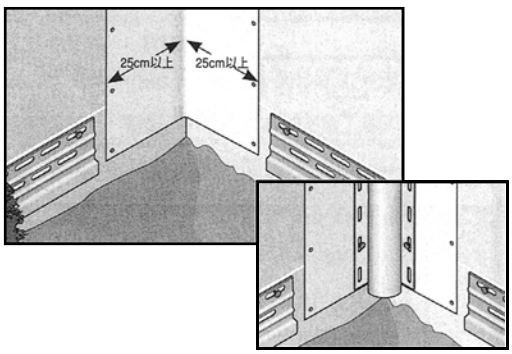
■ 出隅・入隅とスターターは約 12mm 離して取り付け、最下部は
スターターよりも 19mm 下がった所まで来るようにしてください。



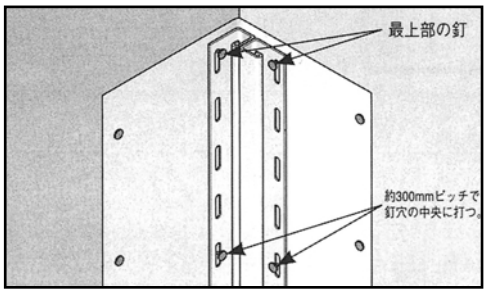
■ 出隅材の底面が見えてしまう場合は左図のように加工すると良いです。



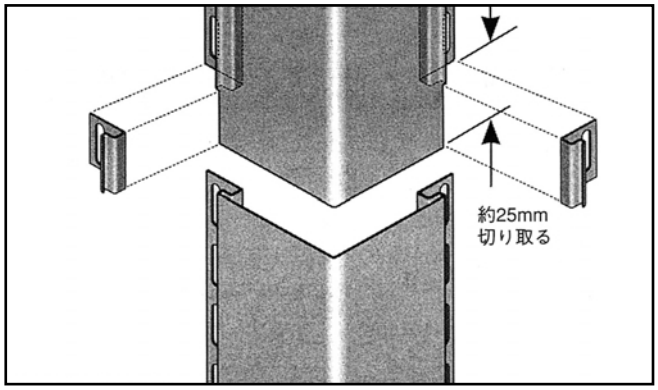
■ 釘は最上端のみ釘穴の最上部に打ちます。それ以降、下は約 300mm
ピッチで釘穴の中央に打つようにします。

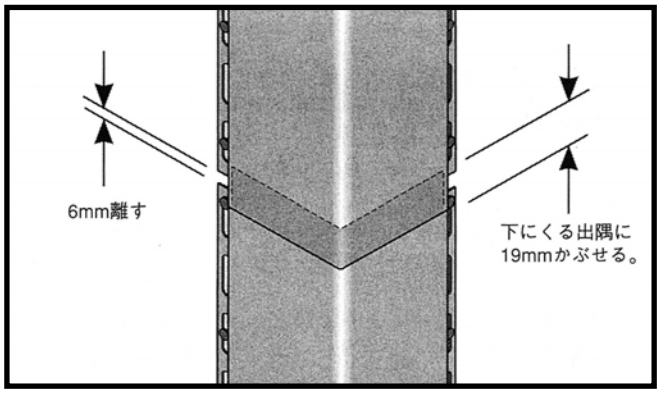


■ 入隅を取り付ける前に防水通気シートの捨て貼りをします。
■ Ｊチャネルを２本使って入隅を納めることも可能です。
（この納め方を行う際には必ず防水通気シートの捨て貼りをしてください。）

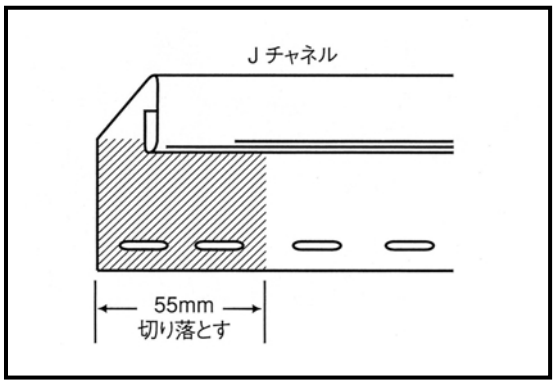


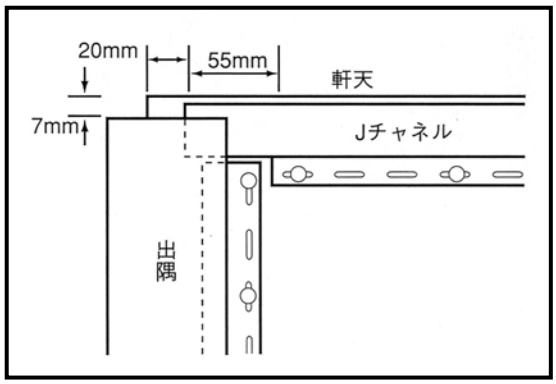
■ 出隅・入隅のジョイントは重ね施工になりますので、図のようにカットして上からの役物が下の役物にかぶさるように内側へ差し込んでジョイントしてください。（この際、下になる役物の上端部の釘・ビスは釘穴の最上部に打つことをわすれないでください。）



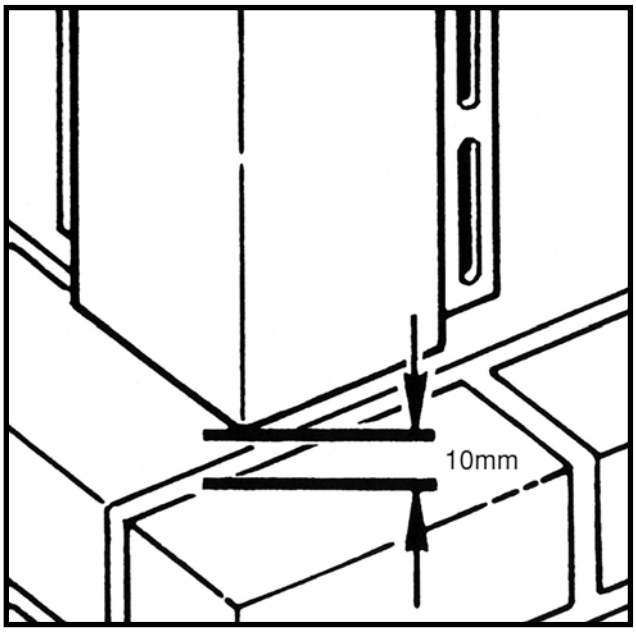


■ 軒天部など、Ｊチャネル、もしくはユーティリティトリムとの取り合い部は以下のように加工するとジョイントが簡単です。（入隅も同様です。）





■ 出隅・入隅役物の下部は、土台水切り部材や板金水切り、胴差幕板などから約10 mm 離して施工してください。



3. スターターの施工

■ 始めに墨打ちしたチョークラインに合わせてスターターを取り付けます。

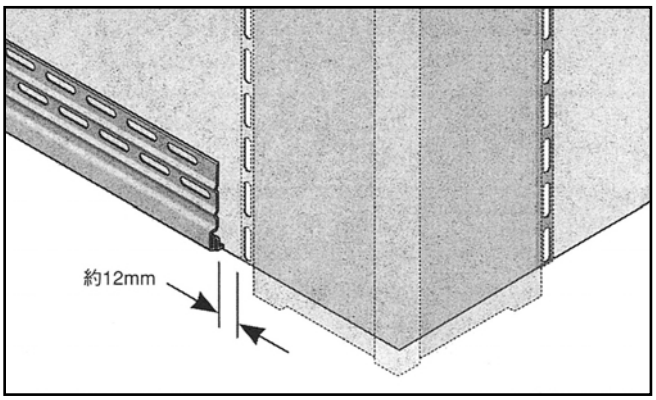
■ スターターは出隅・入隅より約12 mm 離して施工してください。

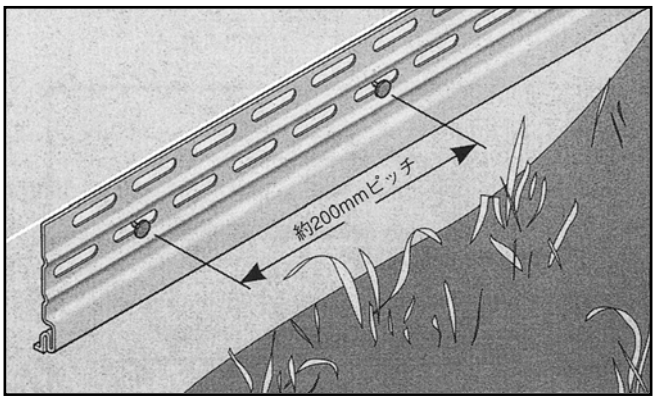
■ 釘打ちのピッチは約200 mm ピッチになるようにしてください。（釘穴の中央に打ってください。）

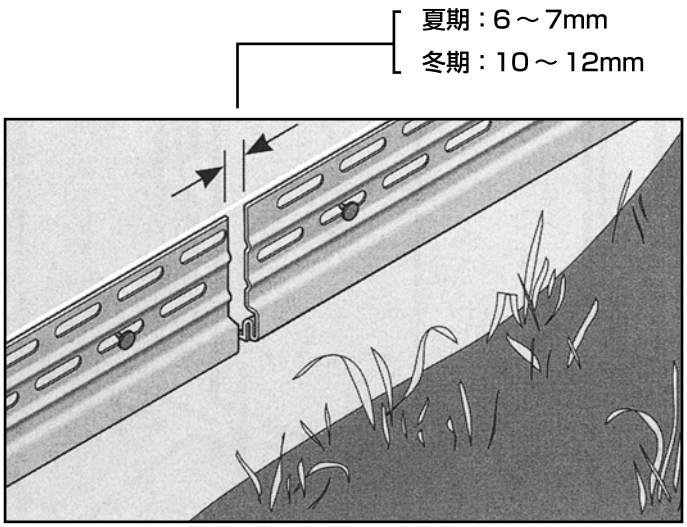
※ **釘またはビスの頭は打ち込みすぎないよう、頭を 1mm 浮かせてください。釘打ち後にスターターが釘穴に沿って左右にずれ動く事を確認してください。**

■ スターターとスターターの間隔は施工時の外気温によって異なりますのでご注意ください。

夏期～外気温30℃以上で施工する場合　－　間隔は6～7 mm
冬期～外気温10℃以下で施工する場合　－　間隔は10～12 mm







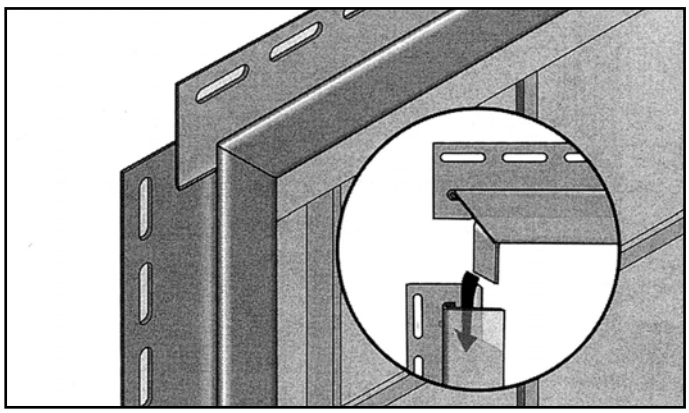
4. 開口部約物の施工

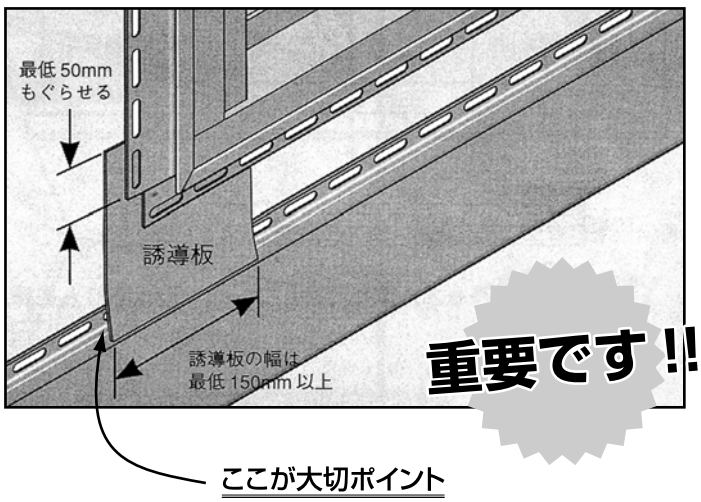
■ サッシ廻りやドアなどの開口部廻りには、Ｊチャネルを取り付けます。

■ Ｊチャネルの取り付けは下図のようにしてください。Ｊチャネルは、下部→両サイド→上部の順で取り付けてください。

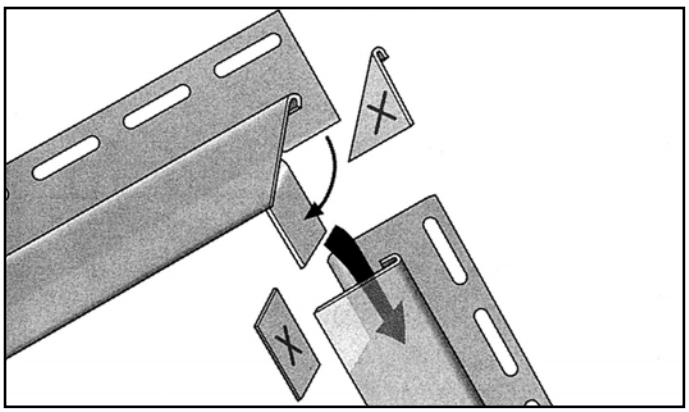
■ 雨水誘導板を必ず取り付けてください。（誘導板は薄いプラスチック板を使用してください。なければ防水シートなどで代用してください。）

■ 雨水誘導板は必ずＪチャネルの下にしっかりともぐり込ませ、下部は下にくるサイディング本体の釘穴部（ネイルフィン）に確実にかぶるよう施工してください。





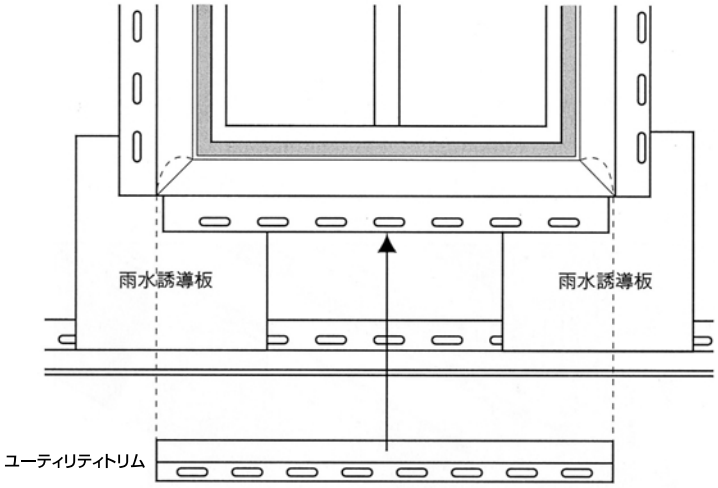
● トメ部加工方法



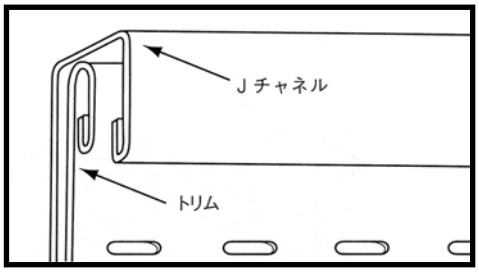
5. 開口部上下のユーティリティトリム施工

■ 開口部上下にくるサイディング本体をしっかり固定するためにＪチャネルの中へユーティリティトリムを取り付けてください。

■ ユーティリティトリムの釘穴がＪチャネルの釘穴とずれてしまう場合はユーティリティトリムにネイルホールパンチで釘穴を開けなおしてください。



開口部上下にくる本体をしっかり固定するために
Ｊチャネルの中にトリムを挿入してください。



※トリムの釘穴がＪチャネルの釘穴と一致しない場合は、
トリムに釘穴用パンチで釘穴をあけてください。

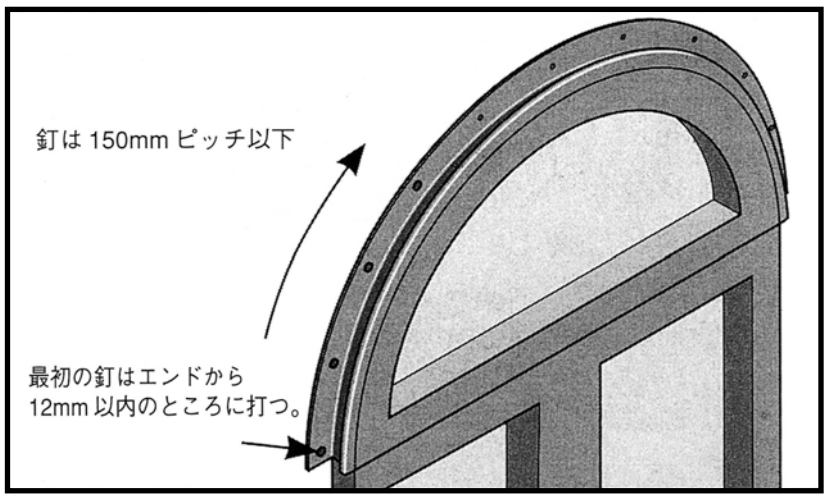
● **開口部上部のＪチャネルにも同様にユーティリティトリムを挿入してください。**

6. フレキシブルJチャネルの施工

樹脂サイディングには、半円窓など、R部分の見切りに便利なフレキシブルJチャネルがあります。

■ 半円窓の上辺などのＲ面に沿って施工してください。

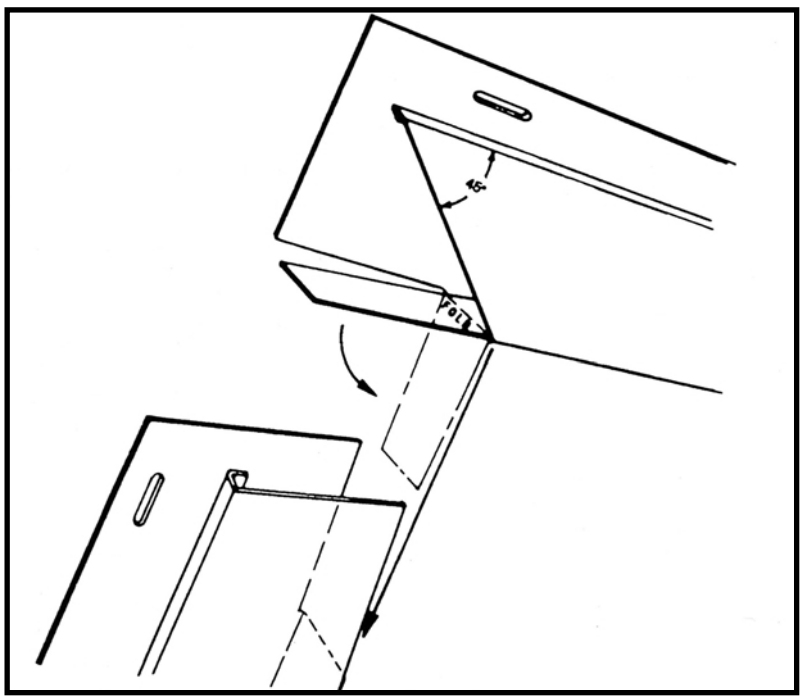
■ フレキシブルＪチャネルには予めいくつかの切り込みが入っておりますが、Ｒのきつい場合などは適時切り込みを追加、もしくは深くして調整してください。



7.ウィンドウトリムの施工

樹脂サイディングのウィンドウトリムは窓廻りやドア廻りのJチャネルに替えて施工することができます。幅広の額縁として有効です。

- まず窓上にくるウィンドウトリムの両端を留め切り加工します。次いで雨水誘導のために残りの部分に鋏を入れ、折り曲げます。
- 縦にくるウィンドウトリムに被せます。
- 縦のウィンドウトリムは約200mmピッチで釘・ビス止めしてください。



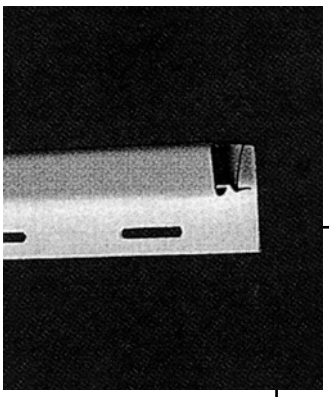
※　本体を施工する際、端に打つ釘・ビスをウィンドウトリムのネイルフィンの上から打たないように注意してください。

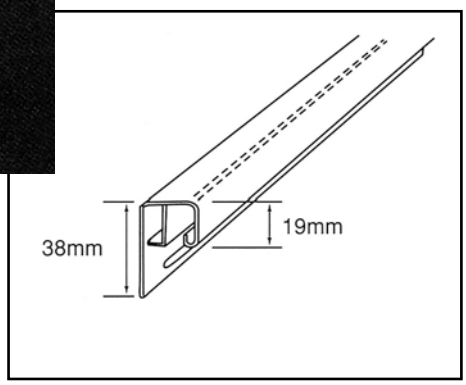
8. 軒天部・切妻部の約物施工

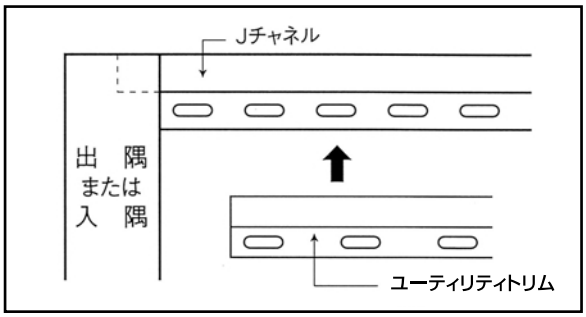
軒天部（水平部）の約物施工

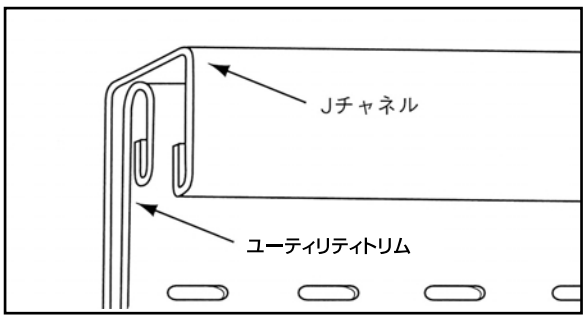
■ 軒天物（水平部）のＪチャネルもしくはユーティリティトリムの出隅・入隅との取り合いはＰ11を参照してください。
軒天部（水平部）の役物にはユーティリティトリムが有効です。

■ Ｊチャネルで施工される場合はＪチャネルを取り付け後、開口部上下（Ｐ14の5）同様、ユーティリティトリムを取り付けてください。





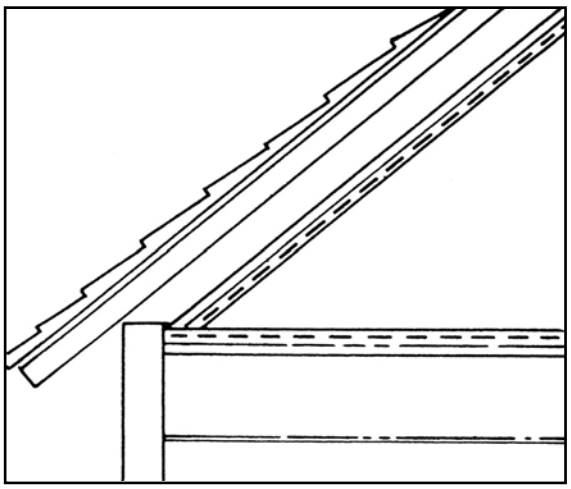


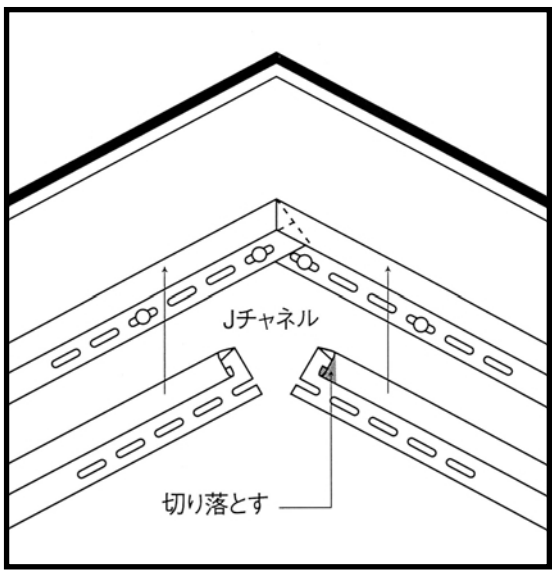


切妻部の約物施工

■ 切妻部（妻壁軒天取り合い部）は、Ｊチャネルで施工します。妻の頂上部（Ｊチャネル交差部）は左右どちらかのＪチャネル端部をナナメに切断加工し、重ねて施工してください。

■ ユーティリティトリムは使用しません。

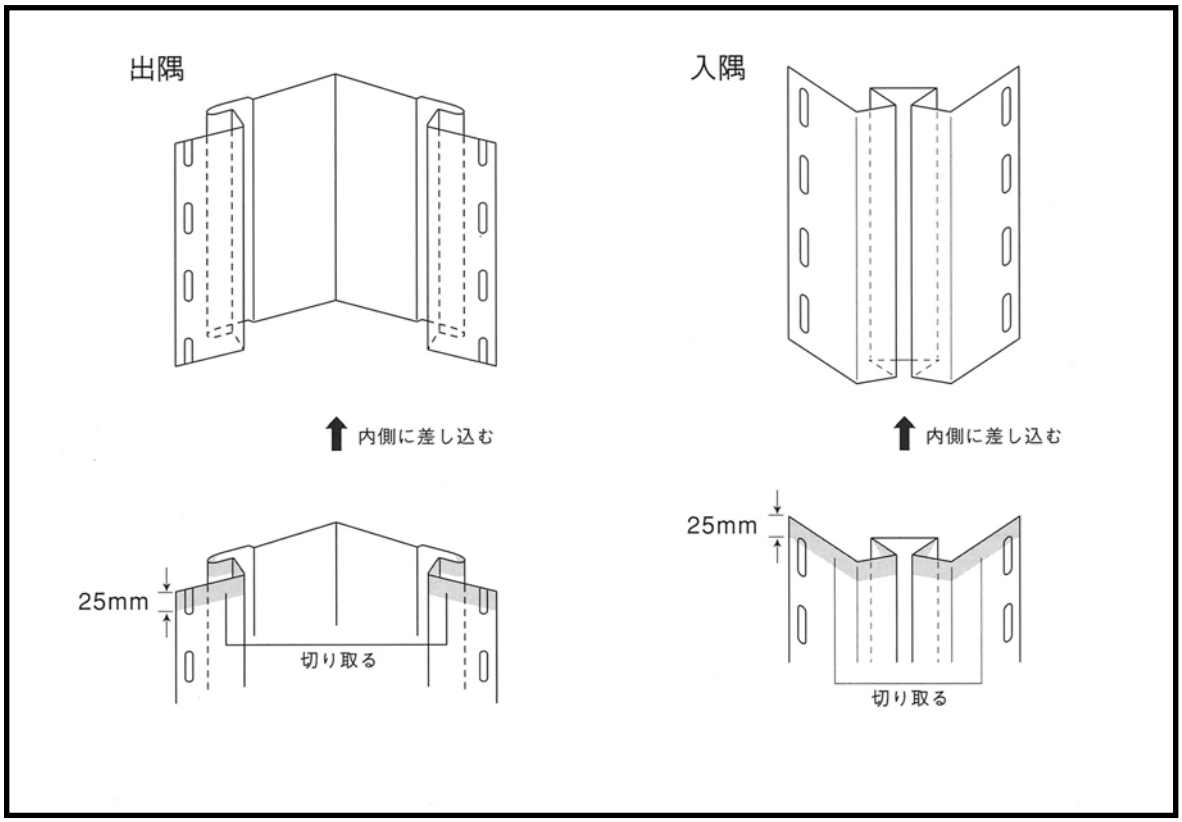




9. 各種約物のジョイント加工方法

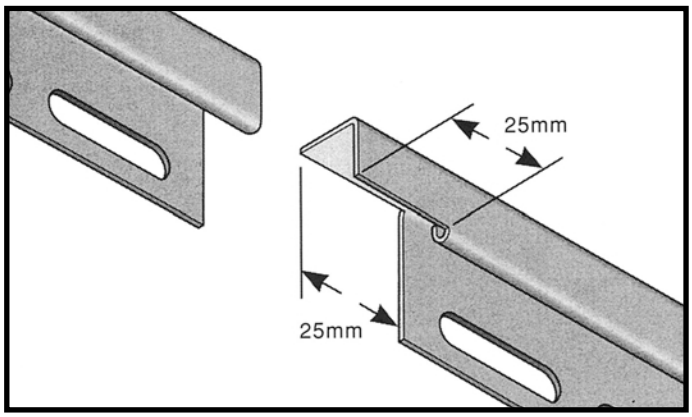
1. 出隅・入隅のジョイント

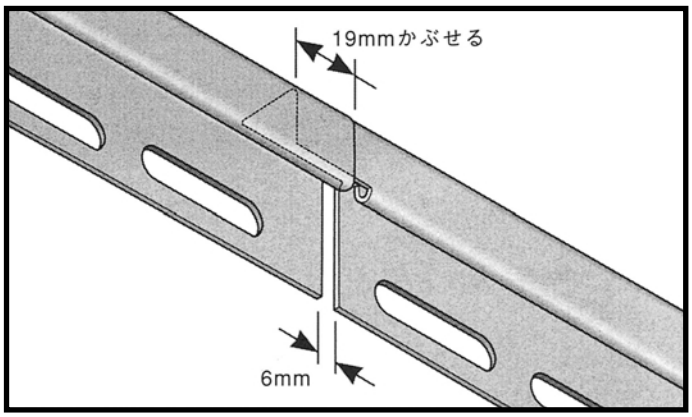
■　出隅・入隅のジョイントは以下図のように加工してください。



2. Jチャネルのジョイント

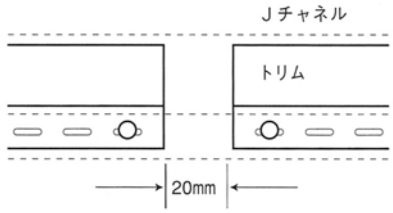
■　Jチャネルのジョイントは以下図のように加工してください。

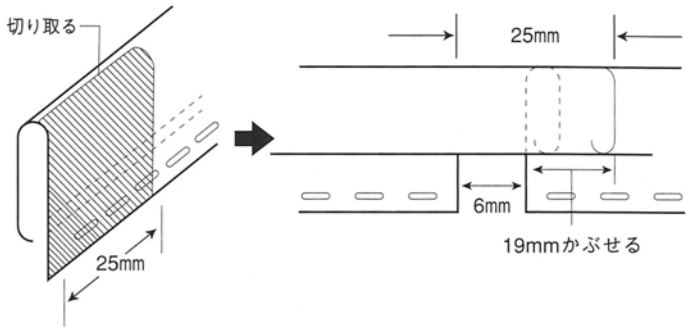




3. ユーティリティのジョイント

■ ユーティリティトリムのジョイントは以下図のように加工してください。
通常は間隔を空けてのつなぎで良いですが、表面に見えてくる場合などは切り込み加工をしてジョイントしてください。





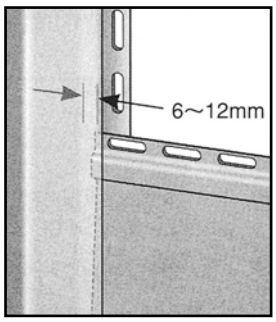
10. サイディング本体の施工

1. 本体の施工方法

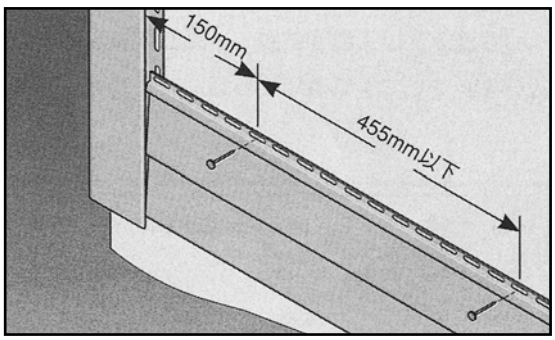
■ 本体はできるだけ建物の裏側のコーナーから正面に向かって貼ることをお勧めします。(建物正面から見てサイディングのコグチ面が見えなくなります。)

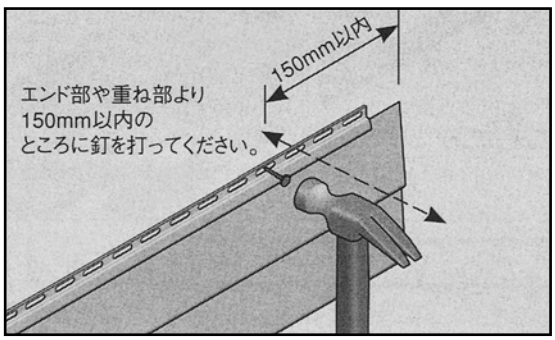
・本体はスターター部から貼り始め、下から上へと貼っていきます。
・スターター溝及び各ジョイント部分はしっかりとはめ込み、無理には引っ張らないようにしてください。
・出隅・入隅やJチャネルと役物の取り合い部分は間隔を空けて施工してください。(間隔は施工時の気温に合わせて下記のように設定してください。)

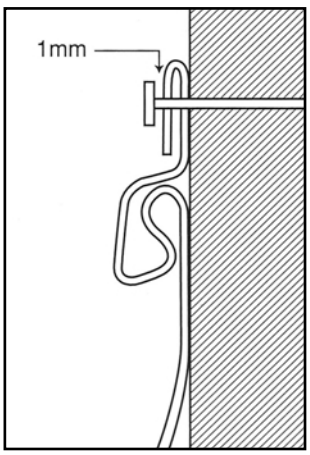
夏期～外気温30℃以上で施工する場合 － 間隔は6～ 7 mm
冬期～外気温10℃以下で施工する場合 － 間隔は10～12 mm

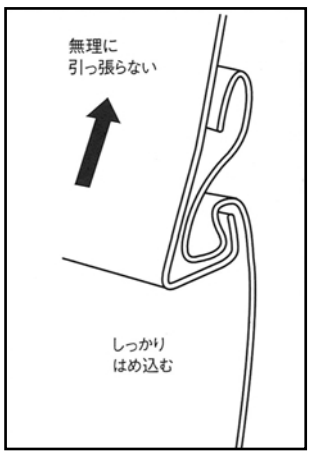


釘は必ず
手打ちしてください!!









※釘またはビスの頭は打ち込みすぎないよう、頭を 1mm 浮かせてください。(455 mm ピッチ以下)
釘打ち後にサイディング本体が釘穴に沿って左右にずれ動くことを確認してください。

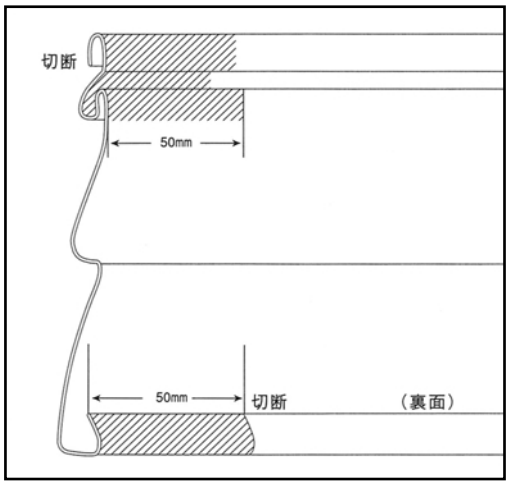
上記の内容をしっかりと尊守してください。守られない場合は反りやたわみ、歪みの原因となりますのでご注意ください。

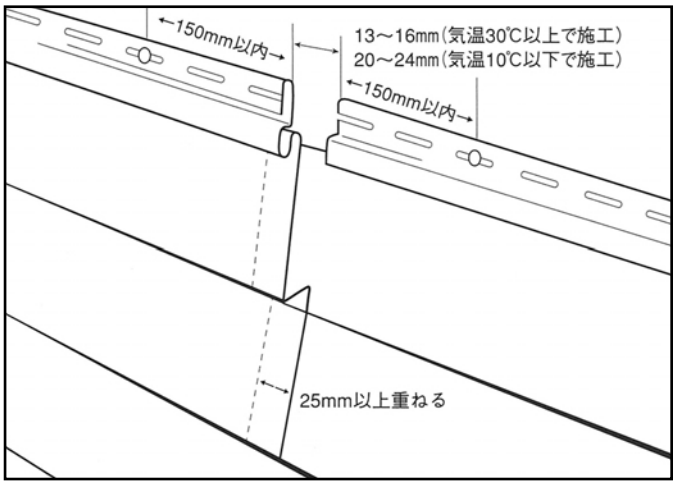
2.本体のジョイント方法

■　樹脂サイディングは重ね施工で施工します。ジョイント部分や役物取り合い部などにはコーキングの使用はしないでください。

・ジョイント部分の上下は重ねるための切り込み加工をしてください。
（切断前のサイディング本体の左右に切り込みが入っていますので参考にしてください。）

・ジョイント部分は施工時の気温によって以下のように間隔をあけて施工します。

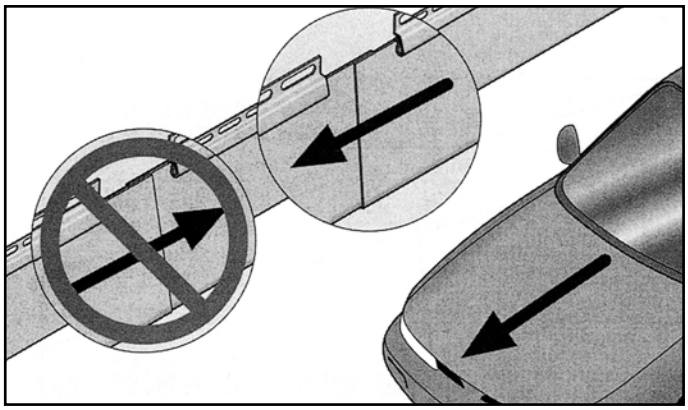




■　重ね分の目地は上下通らないように乱貼りしてください。特に良く人目に付く様な箇所（玄関廻りなど）は注意してできるだけ目地を持ってこないように施工されることをお勧めします。

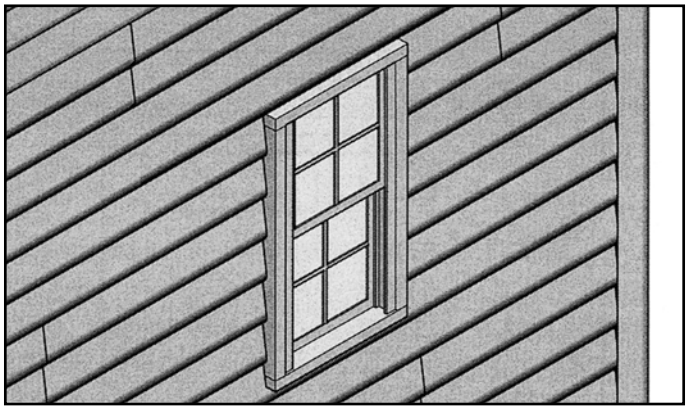
●重ねの向き

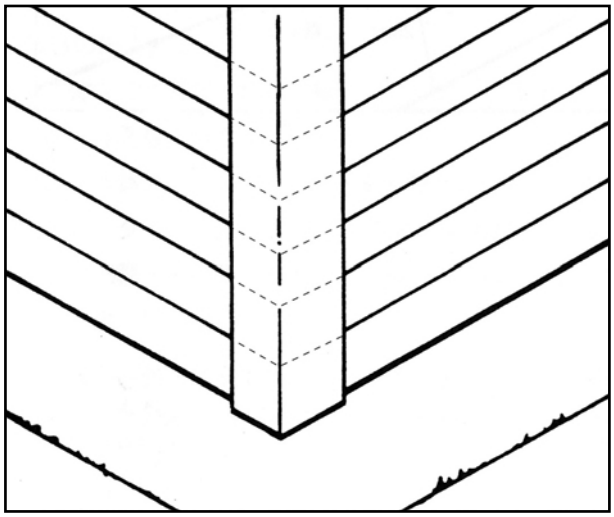
人目に付くような箇所では、特に重ねの向きに注意してください。進行方向にさからわず、建物正面から見て、ジョイントのコグチが見えないように施工してください。



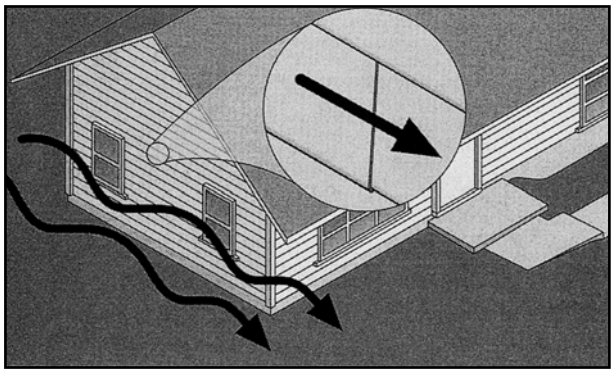
●乱貼り

ジョイント位置を横方向に 1,000mm 以上離し、縦方向にサイディング３段以上離すように施工すると見た目が良くなります。

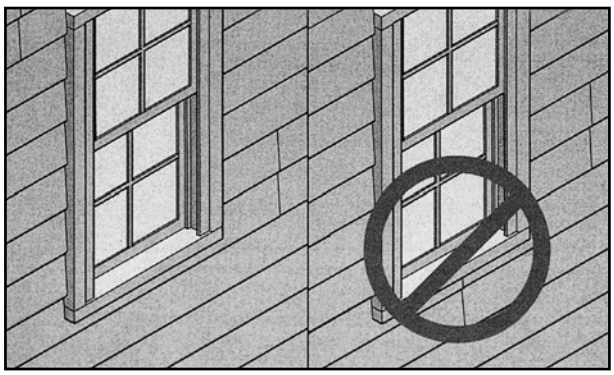




※時々、出隅・入隅位置で段のズレが無いかチェックしながら作業してください。



(注) 強風地域や、強い風が吹きつける所での施工は、風下になる方から貼って行き、風向きにさからわないようにしてください。



(注) 窓などの開口部の真下にジョイントが来ないように施工してください。

3. 開口部下部への施工

■　開口部下にくるサイディング本体の余剰分は、鋸もしくは鋏を縦に入れ、長手方向はカッターなどにて切り離します。

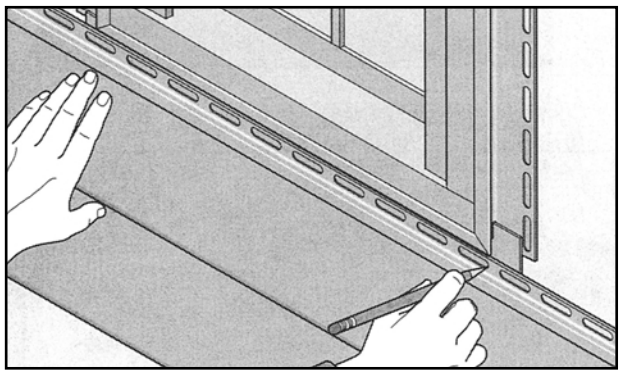
・この際、サッシの幅に対して左右それぞれ約10 mm のクリアランスを見て縦切り込みを入れてください。

・スナップロックパンチで長手切断部に沿って約150 mm 以内の間隔でパンチし、引っ掛けの突起を外側向きと内側向き交互に入れてください。

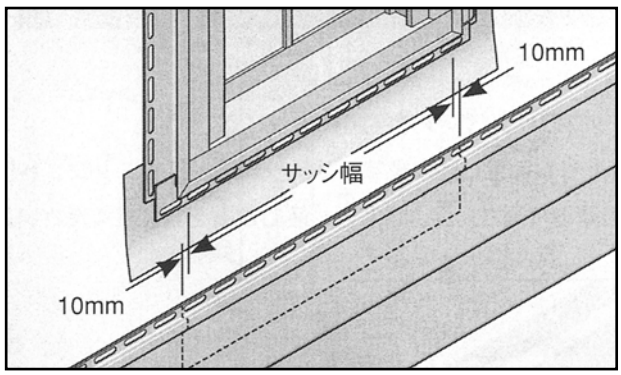
・ユーティリティトリムもしくはＪチャネルに差し込みます。

・開口部下端や、軒天部（水平部）のＪチャネルおよびユーティリティトリムへの差し込みは切断部のサイディングの厚み（高さ）によって差し込む位置を変えてください。

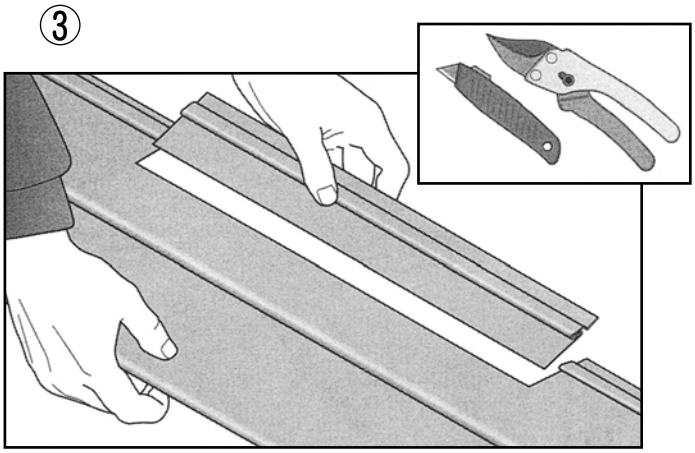
①



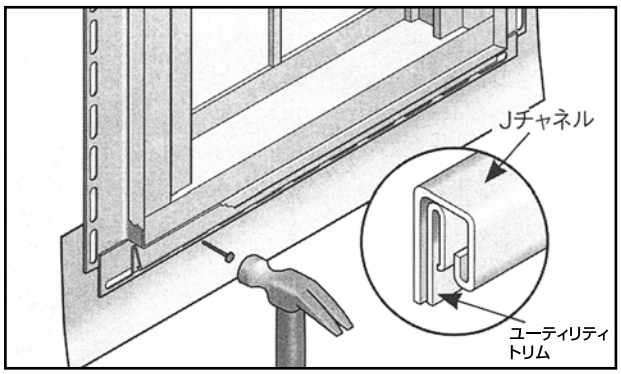
②



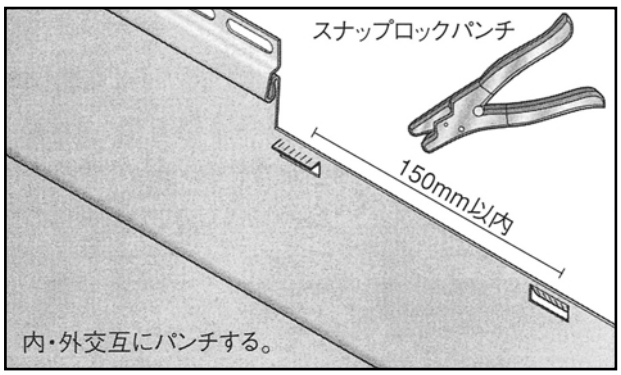
③



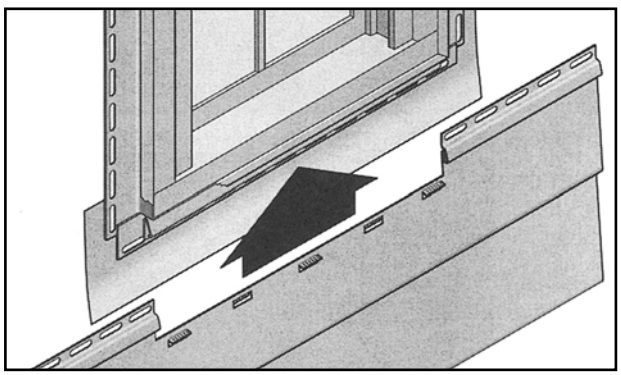
④



⑤



⑥



4. 妻壁部及び軒天部（水平部）への施工

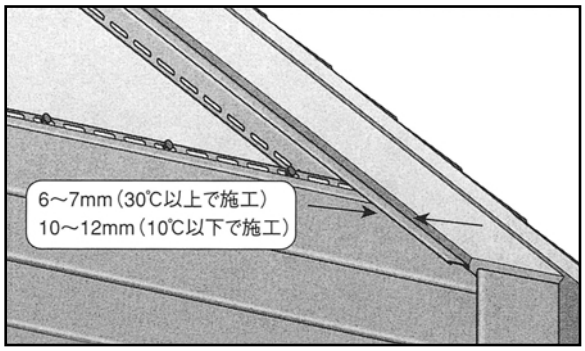
妻壁部の施工

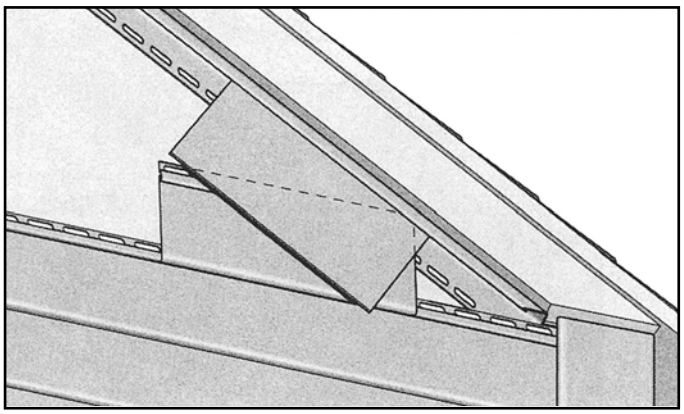
■　切妻の角度に合わせて切断し、Ｊチャネルへ挿入します。この際施工時の気温に合わせて以下のように間隔を空けてください。

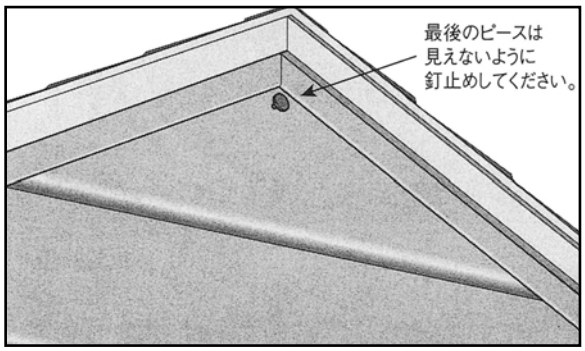
夏期～外気温30℃以上で施工する場合　－　間隔は 6 ～ 7 mm

冬期～外気温10℃以下で施工する場合　－　間隔は10～12 mm

・最上部（３角頂点部）は見えない位置で釘・ビス止めしてください。





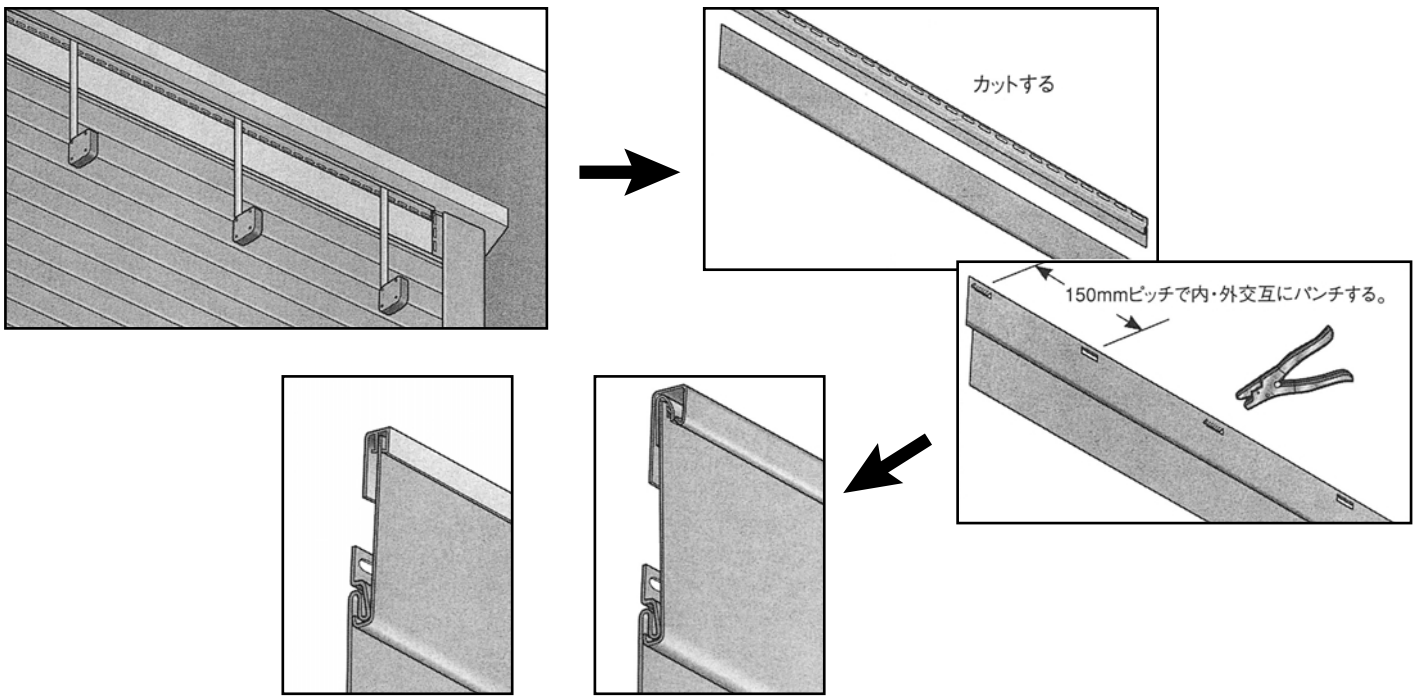


軒天部（水平部）の施工

・水平軒天部は残りの隙間にあわせて長手方向に切断します。

・切断部に沿って約150 mm 以内の間隔で内向き・外向きを交互にスナップロックパンチで突起を作ってください。

・これをＪチャネル、ユーティリティトリムに差し込みます。Ｊチャネル、ユーティリティトリムへの差し込みは切断部のサイディングの厚み（高さ）によって差し込む位置を変えてください。

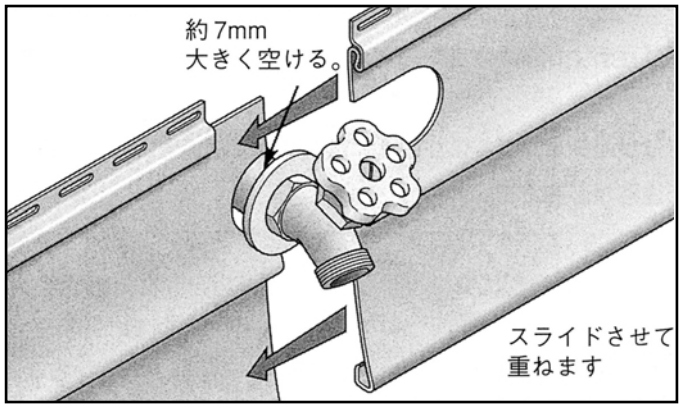


・ユーティリティトリム納め　　・Ｊチャネル＋ユーティリティトリム納め

5. 障害物を避けたい時の施工

■　障害物のある位置にジョイントを入れる必要があります。

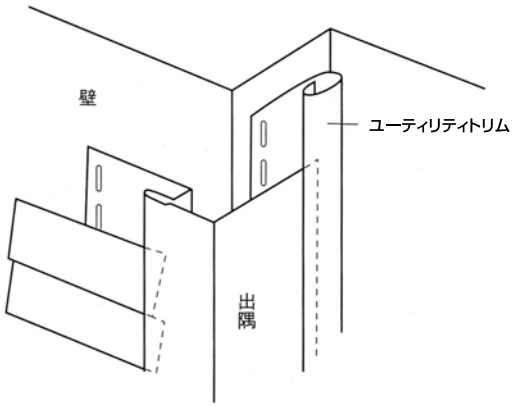
・障害物より約 7mm 程大きくカッティングし、互いを重ねて施工します。

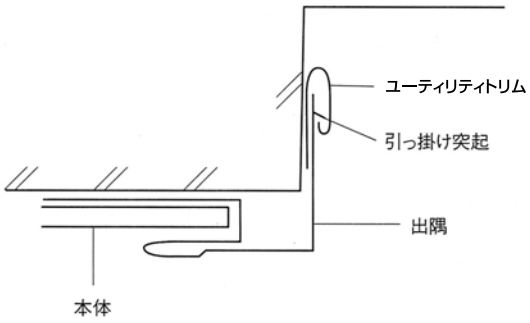


11. その他の役物使用方法と加工

■　出隅材と併用し、ユーティリティトリムを縦見切りに使用する。

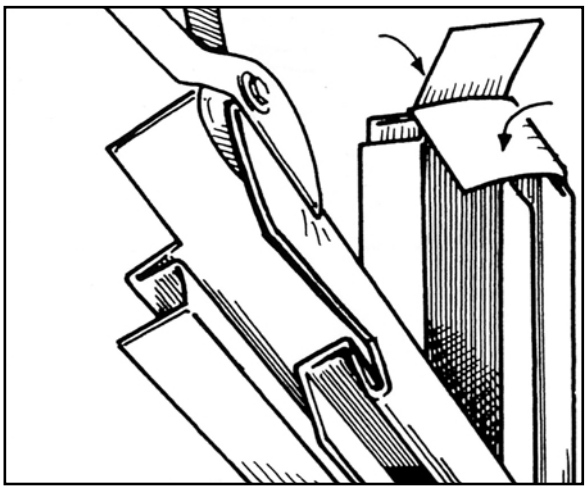
出隅をユーティリティトリムに挿入する部分はスナップロックパンチにて突起を作ります。

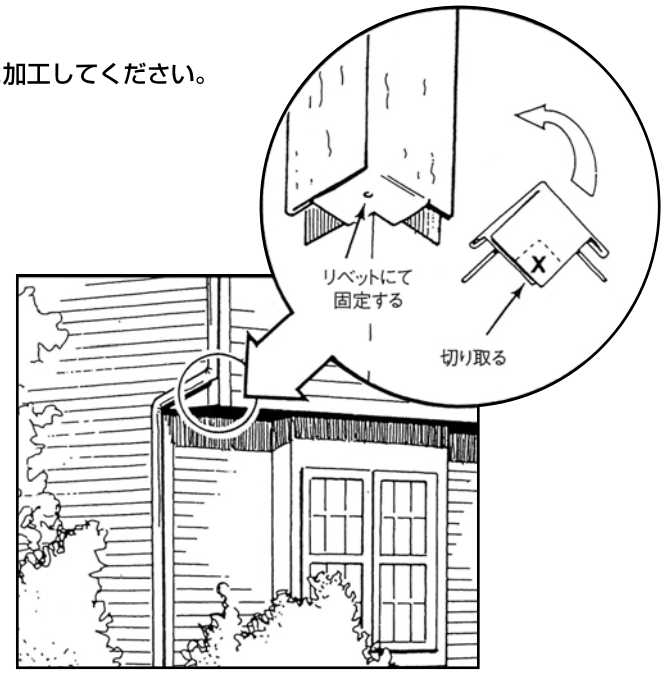




■　出隅下部のキャッピング

出隅材がオーバーハング部にきた場合の下部の処理は以下のように加工してください。





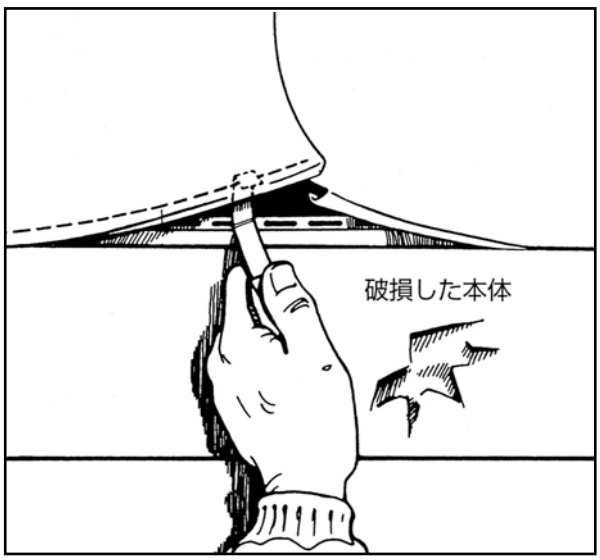
7 交換方法

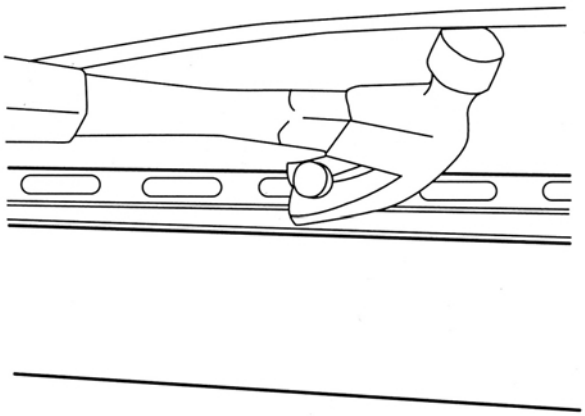
1. 本体の交換

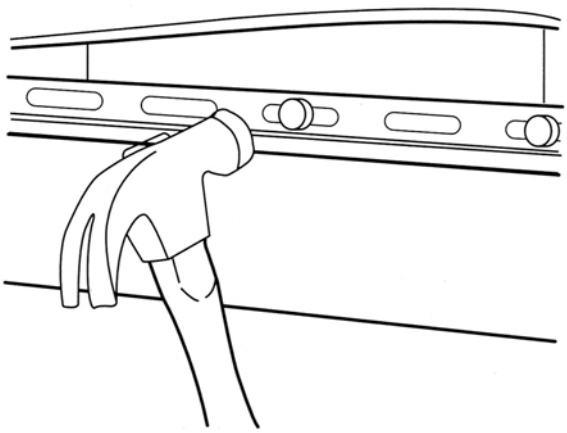
■ 破損や極度の汚損などが理由でサイディング本体を交換する場合は以下の手順で行ってください。

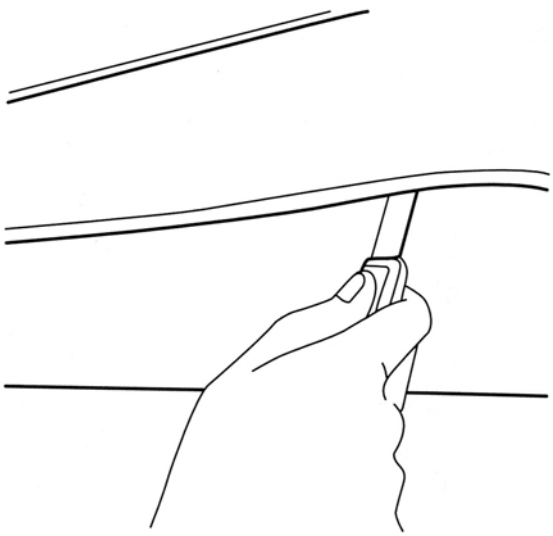
※冬期間など外気温の低いときはサイディング本体が硬く、割れやすくなっておりますので、作業箇所を十分暖めてから作業を行うか、作業時期を改めるなど注意が必要です。

・交換するサイディング本体の上のパネル下部に交換用リムーバルツールを入れ、サイディング材を浮かせたあと、滑らすようにして剥がす。
（この際にサイディング材が割れないように十分注意する。サイディング材のジョイントの重ね部分や、出隅や入隅部などの端部からリムーバルツールを差し込むと比較的容易に取り剥がしができます。）
・上のサイディングを浮かせたまま、交換したいサイディングの釘・ビスを外し、新しいサイディングを取り付けます。
・そのままリムーバルツールを使って上のパネルを被せて交換終了です。









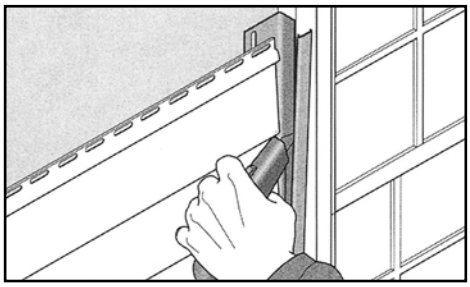
2. Jチャネルの交換

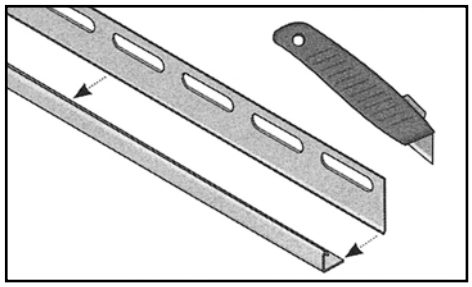
■ Jチャネルが破損した場合は以下の手順で交換してください。

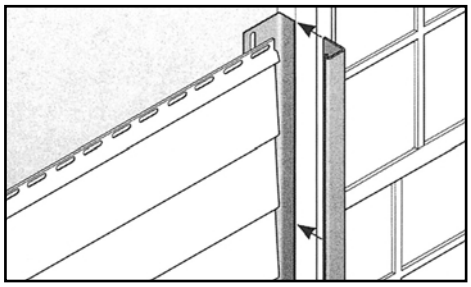
・破損したJチャネルの表に見えている面をカットします。

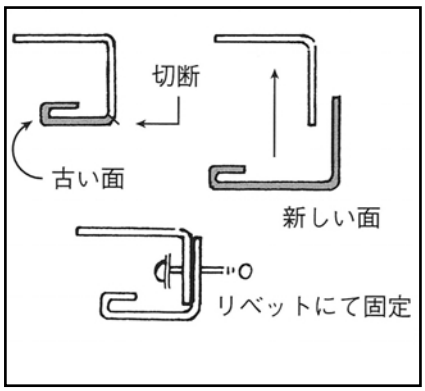
・新しいJチャネルのネイルフィンをカットし、上から被せます。

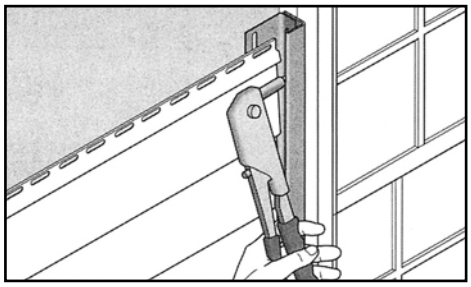
・古いJチャネルと新しいJチャネルをリベット等で固定します。









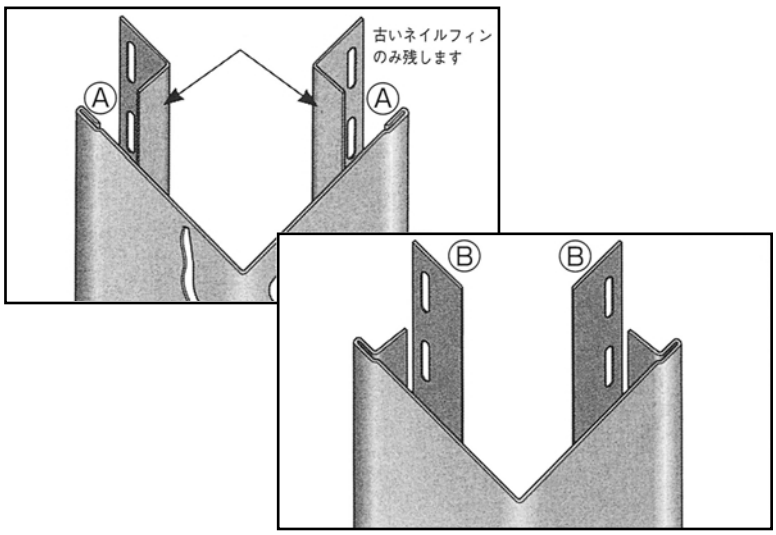


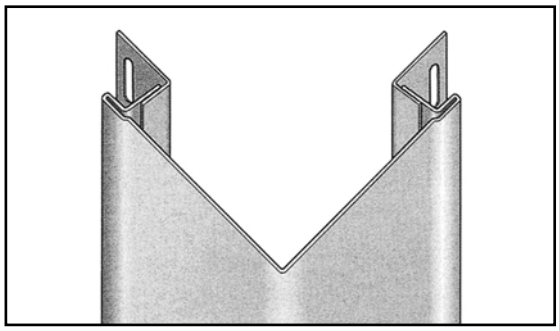
3. 出隅の交換

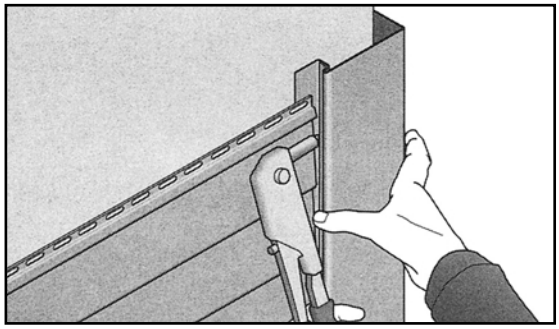
■ 出隅が破損した場合は以下の手順で交換してください。

・初めに、破損した出隅の表面の Ⓐ を2箇所カットします。

・新しい出隅のネイルフィン Ⓑ を両方カットして差し込み、リベット等で固定します。



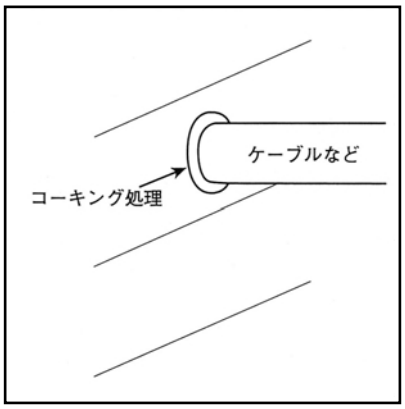


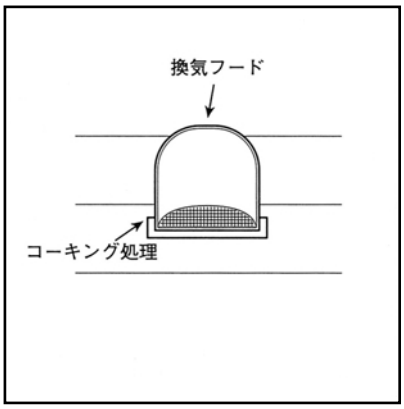


8 施工後の処理

■ 換気システムなどの給排気口（キャップ）周りや、外部コンセント・水栓金具廻りなどはサイディングとの間を5～10 mm 空けてコーキング処理してください。

※このコーキングは防水という意味ではなく、美観を損ねないための目的で行うものです。本来の防水効果は下地処理の際にしっかりと行ってください。





9 メンテナンス

■ 樹脂サイディングは簡単に洗浄することができます。通常の汚れはホースで洗い流してください。洗車用の毛先が長く、柔らかいブラシなどを併用することで更に汚れは落としやすくなります。

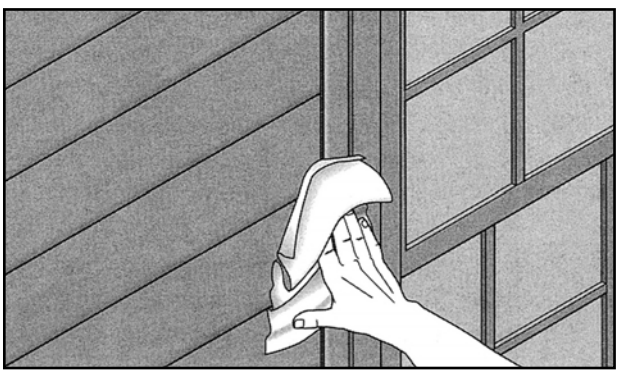
・水垢などの落ちにくい汚れにつきましては、家庭用中性洗剤や、弱アルカリ性洗剤にて洗い流してください。洗浄は下部から上部へ、すすぎは上部から下部へと行ってください。洗浄の洗い残しが無いように上から下へ入念にすすぎ流しをしてください。

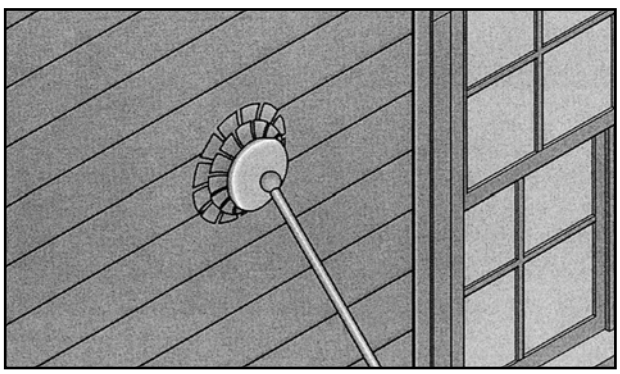
・高圧洗浄機などを使用する場合は、サイディング材に近づけすぎますと破損の恐れがありますのでご注意ください。

・さらにガンコな汚れの場合はキシレンやラッカー、シンナーなどを布に含ませて拭き取ってください。（原液をサイディング材に直接かけない様にしてください。）拭き取ったあとは速やかに中性洗剤等で洗い流してください。

10 お客様へお願い

■ 全ての樹脂製サイディングは錆びたり腐食したりはしませんが、自然の汚れには勝てません。暴風雨など、様々な天候下に晒されることによって汚れはついてしまいます。お客様による定期的なクリーンアップで美しい樹脂サイディングを長きに渡って維持していただけますことをお願い致します。





製品保証書

オーウェンスコーニング社（以下、弊社と記す）は弊社樹脂サイディングに対しその条件と
制限内容をここに定め、製造過程上による製品の欠陥に対して下記の内容にて保証します。

1. 被保険者：
   弊社樹脂サイディングを購入した最終顧客または第一次取得者となります。
2. 材料保証期間：
   施工完了日から30年間を保証します。
3. 保証譲渡制限：
   この保証は第一次取得者（最終顧客）様限りで第三者への譲渡はできません。
4. 保証の内容：
   1） 通常気象条件下において、均等に日光暴露された結果生じる部分的退色
   2） 適正な使用条件下における割れ、変形、欠け、異常変色、表面の剥離
5. 保証方法：
   保証期間中に、万一保証内容に適合する事態が発生した場合は、状況に応じて次の方法にて救済致します。
   1） 代替品の無償提供
   2） 補修、取替については正当とみなす工事費用の応分負担

   弊社は状況によって前項1または2のどちらかを選択する権利を有します。また運賃等諸費用、廃棄処分費、2次的部位への損傷復旧費及び付帯的費用等は除外致します。

6. 免責事項
   弊社製品は通常の環境条件下で使用された場合に保証するものとし、下記のような場合には賠償の責任を負わず、保証の適用外と致します。
   ① 不適切な保管、運搬、適用によって生じた変形や割れ。
   ② 施工ガイドとは異なる不適切な施工によって発生した場合。製品の誤用によって発生した不具合。
   ③ サイディング表面に埃などの汚れが原因となって生じた部分的退色、変色及び日光の暴露状況（方角や遮蔽物の程度）が異なる面で生じる色むら。
   ④ 不適切な保管、運搬、適用によって生じた変形や割れ。
   施工ガイドとは異なる不適切な施工によって発生した場合。製品の誤用によって発生した不具合。
   ⑤ サイディング表面に埃などの汚れが原因となって生じた部分的退色、変色及び日光の暴露状況（方角や遮蔽物の程度）が異なる面で生じる色むら。
   ⑥ 故意、過失によって生じた損傷。
   ⑦ 地盤沈下、地盤歪み等に起因する場合、あるいは構造体や下地の不具合に起因する場合。
   ⑧ 地震、竜巻、突風、暴風、雹、落雷、洪水、落石等の天変地異や火災、または飛散物や氷柱の落下等による場合。
   ⑨ 異常な熱源、反射光、大気汚染、有害な化学物質や空気中の塗布物、菌類に起因する場合。
   ⑩ 瑕疵を発見した後、速やかに届け出がなかった場合。
   ⑪ 弊社からの助言なく修理を行ない、それによって損害が大きくなった場合。

7. 付帯事項
   弊社は色の変更を含む製品製造中止または仕様変更により、その対象となる製品を供給できない場合は代替品をもって対応する権利を有します。

オーウェンス・コーニング・ジャパン株式会社
〒105-0001 東京都港区虎ノ門三丁目12番1号
ニッセイ虎ノ門ビル4階
代表取締役 スティーブ・ロバート・ザークル

FIRST
TRADING
CO.,LTD.

株式会社 ファーストトレーディング

本社 〒572-0081 大阪府寝屋川市東香里園町11番27号
TEL：072-837-3535 FAX：072-837-3536
E-mail:ec@firsttrading.co.jp
http://www.firsttrading.co.jp